

仏教音楽 人物伝

- 12 -

福本 康之

飛鳥 寛栗 (1915~2016)

Asuka Kanritu

学生時代に仏教音楽に魅せられ
膨大な資料を収集した

本の楽壇における重要な役割を担っており、なかでも仏教音楽というジャンルは、飛鳥が籍をおいた男声合唱団の活躍によって、ひろく宗門内外へと知られつつありました。そして大学を卒業した飛鳥は、僧侶という立場から、合唱団時代の経験に基づき仏教音楽で法義をひろめようと、さらなる仏教音楽の興隆に資するため、その資料の収

コレクシヨン・A」として公開（現在は相愛大学図書館へ寄託）され、数多くの仏教音楽関係者（筆者もそのひとり）や各種教化団体の活動を支えることになりました。なかでも、龍谷大学の合唱団という最先端の現場で飛鳥自身が実際に使っていた資料（楽譜）や、作曲者自身との往復書簡などからは、生き活きと展開された活動の様子がうかがえます。

仏教音楽の資料を収集し普及に尽力

仏教音楽の約130年におよぶ歴史をひもとくと、その間に数千という作品が創られ、あまたの人が普及活動に携わってきた様子がうかがえます。とはいえ、今日それらの楽曲や活動の詳細を知ろうとすると、一筋縄では行きません。理由は、仏教音楽に関する現存資料（特に昭和30年以前のもの）が非常に少ないからです。そうした貴重な資料を収集・蓄積し、私たちの

手が届くようにと尽力した人物が、飛鳥寛栗です。富山県高岡市・善興寺に生まれた飛鳥は、仏教を学ぶため龍谷大学へ進学します。そこで出会ったのが、男声合唱による仏教音楽の世界でした。まだまだ西洋音楽が浸透していない昭和・一桁時代の日本では、大学の合唱団が、アマチュアながらも日



「仏教音楽コレクシヨン・A」を主宰する晩年の飛鳥寛栗

集と提供に取り組み始めます。飛鳥によって集められた数千点の資料は、「仏教音楽

飛鳥は、その功績によって、仏教伝道文化賞（2010年、仏教伝道協会）や龍谷賞（同年、龍谷大学）などを授与されています。しかし自身は、自らのこととしてではなく、「仏教音楽が大切な文化として認められた証し」と、その受賞を喜んだと伝えられています。まさに、仏教音楽の普及に尽力した人物ならではの言葉ですね。（敬称略）
（本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長）

（終）